

第２回：地中海沿岸地域

シリアの地中海沿岸地域は 180km に及ぶ海岸線とそれに平行する山脈に挟まれた、幅 20-30km の海岸平野と丘陵地からなる。標高の高い地域では年間 1200mm 以上、海岸平野でも年間 800mm 以上の降水に恵まれている。その影響による、比較的高い相対湿度（平均 65% 以上）及び低い蒸発散量（年間 1600mm 以下）が、この地域の大きな特徴となっている。



地中海沿岸地域の典型的な景観
(手前柑橘、後方オリーブ)

本地域の農業は、柑橘類や温室野菜の栽培に特徴づけられる。特に、オレンジを中心とした柑橘類は、この地域だけでシリア全体の 90% 以上が生産されている。柑橘類の栽培に、農園内の微気象条件をマイルドに保つために、農園周囲の防風林が重要な役割を果たしている。が、あまりに高密度な防風林は、ホワイトフライ等の害虫の繁殖を促してしまう。そのため、最適樹種や最適栽植密度等に関する試験結果に基づいた、農家に対する指導が必要となっている。また近年、柑橘類のエカキムシによる被害が甚大であったが、農業試験場による天敵を使った駆除法の開発により、農業を使用せず防除の効果を上げている。温室野菜の中心は冬季のトマト及びキュウリの栽培である。ハウス栽培農家を中心に、ドリップ灌漑などの新しい灌漑方法が導入されはじめている。しかしながら、システムの運転・管理に関する総合的な指導が充分でなく、こういった新しい灌漑方法の利点が未だ効率的に生かされていない。周年温暖な気候を利用した養蜂業の活性化、及び温室野菜の収量増加をねらった蜜蜂の利用も今後の重要な課題であろう。土地利用面から見ると、オリーブが本地域の主要作目であり、ほとんどの丘陵地に栽培されている。その他、本地域に特徴的な作目としては、煙草、落花生等があげられる。また、農業試験場ではバナナ、コーヒー、茶といった新しい作目の導入に力を注いでいる。しかしながら、冬季の低温から保護するためにハウスが必要であり、これまでのところ一般農家への普及には至っていない。

環境問題については、まず第一にラタキア市北部のダムサルホ地区における、海水貫入が農業上の大きな問題としてあげられる。本地域には柑橘類を中心とした果樹園が広がっていたが、近年の海岸地域におけるスポーツシティーやホテル等の開発による地下水の汲み上げが原因で、灌漑水の水質が急速に悪化しているようである。すでに栽培が放棄された農園もあり、塩害地は拡大の一途を辿っている。また、丘陵地においては、急傾斜地の土壌保全が重要な課題となっている。緩傾斜地は、ほとんどがオリーブの栽培に利用されており、伝統的な石積み技術も観察できる。しかし、作物生産に利用できない急傾斜地では植林等による土壌保全が実施されているものの、土質によってはかなり激しい崩壊も起こっているため、より効率的な対策が望まれている。



急斜面の土壌侵食



塩害により放棄された農園